

岡村 しん

(仮称)ニトリ狛江
ショッピングセンター
について(その3)

問 ①これまで市はどのような対応や要望をしてきたのか。②工事中の音がうるさいときに、市が騒音をはかることは可能か。③解体時の住民との協定について、市はどんな指導をしたのか。④世田谷通りからの右折は、相談を受けているか。⑤排気ガス対策を要望できないか。⑥地下駐車場は可能か。⑦説明会の議事録が出せないか。

答 ①近隣住民の意見に真摯に対応するよう要請。②騒音計を使用して規制基準が守られているか調査。③協定は努力義務だが、多くの方と合意を取りつけるよう要請。④話はあったが市道の形状協議、近隣住民の理解が必要と伝える。⑤20台以上の駐車場にはアイドリングストップの掲示周知が義務づけ。⑥地形的には可能。⑦検討したい。

若者が住み続けたい
狛江に

問 ①狛江市の雇用問題についての考え方について②就職セミナーが4回にふえたが参加者の感想は③昨年から前進したものはあるか④障がい者雇用法が変わるが、対応は⑤16年間で新たにできたスポーツ施設は⑥小公園のスポーツ公園化の進捗状況は⑦狛江〇〇(こまわ)クラブの前進面と課題は⑧今後考えていることはあるか。

答 ①情報提供のほか支援事業も重要と考える②概ね

宮坂 良子

高齢者が安心して暮らせるために

よかつたとの評価③セミナー時間を1時間増、HPの情報を整理④関係機関等と連携し対応⑤高架下運動広場、西和泉グラウンド等⑥今後担当課と協議⑦主催教室に3000人近く参加。会員数増や開催場所の確保が課題⑧国体で醸成された機運をスポーツ振興計画の実現に生かす。

問 ①孤独死がふえ続ける背景にあるのは貧困問題のかかわりも大きい。市としての対応策は。②孤独死ゼロを目指して「見守り」の施策は。③見守りネットワーク推進で、情報紙を手渡すなど訪問による見守りを。④市内3つ目の特養ホーム開設年度は。⑤元気な高齢者が特養ホームに向き交流できる開かれたものにしてほしいが。

答 ①高齢者が置かれている状況を把握すること。②緊急通報システム、あんしんS、配食サービス、あんしん見守りサービスのほか、チラシ配布等による協力要請。③先進事例を参考に検討。④平成26年度中の開設を予定。⑤地域交流スペースの開放などの提案内容を踏まえ、選定事業者と調整。

介護予防事業の
充実について

問 ①高齢化社会にとって介護予防事業はますます重要になっていく。実施内容と参加者の感想は②介護予防に参加

した人の1年後の状況把握を③介護予防教室に参加した人は、歩けるようになったなど効果が上がっている。持続が大事なので、自主グループができる仕組みづくりを④自主グループのためにもリーダー養成を広げて。

答 ①うんどう教室、会食会、口腔ケア講座等。自分でできることは努力したい、運動機能向上でつまずかなくなった等。②再度二次予防事業対象者となった場合は把握できるが、それ以外は困難。③自主化に前向きな方に話をしていく。④リーダー養成は今後の検討課題。

西村 あつ子

交通安全対策について

問 ①都市計画道路3・4・4号線開通までの協議事項。②この間の安全対策。③再度交通量調査を。④信号機が片側のみ設置。非常に危険であり安全対策を。⑤警察の対応は。

答 ①警視庁と11回協議。調査資料や設計図の確認、現地確認、道路線形、信号機設置、交通安全対策を協議②周知の徹底と表示等で対策③関係部署とも調整④関係機関に信号機等の追加設置要望を提出⑤交通量等の基準に基づき、設置に向けて検討しても1年以上期間が必要⑥要請していきたい⑦道路完成時に設置する計画。

子育て支援の充実に
ついて

問 ①来年度の待機児数の見込み。②認証保育園の負担軽減を。③宮前保育園と和泉児童館複合計画の取り組み状況。

答 ①(公私立)各保育園の連携を。⑤公立保育園の園庭開放の利用状況。⑥公立保育園を地域の子育て拠点に。⑦和泉小学区での3つの学童クラブの運営は。⑧東野川児童の定員超過対策を。

問 ①改善できると見込んでいる。②待機児解消を最優先に図る。③プロジェクトチームを設置して検討している。④保育士の交換研修等を実施している。⑤105回実施して大人が529名、子供が564名。⑥地域に密着した支援に取り組む。⑦青少年問題協議会小委員会でも検討している。⑧新たな放課後対策で入所定員の確保を図る。

田中 智子

防災対策について(狛江
地域防災計画の見直しについて)

問 ①東京都の被害想定としての認識は。②地域防災計画の見直しに入るが、早期にできることから具体化する必要があるが。③今後広域的な連携が必要。④要援護者支援プランの到達と今後の進め方。⑤モデルプラン作成に当たっての考え方。

答 ①避難場所等の見直しが必要。②適宜行う。③前

多摩川河川敷利用の
あり方について

問 ①バーベキュー禁止の4月以降、現在までの状況について。②今後の見直しについて。③五本松付近での利用について、利用が制限されるようになったとの話がある。考え方の整理が必要。④今後は多摩川を生かし、市民や観光客を呼べるような活用方法が必要だが。

答 ①指導員を配置し現在までトラブルなし。ゴールデンウィークの9日間利用者ゼロ。口頭注意4月12件、5月22件。②夏季休暇の対応として、新たに河川敷内に看板設置、小田急線高架の壁面と道路に禁止事項を貼付。③火気禁止区域を周知する。④観光協会が貸しボート業を観光資源として実施。⑤観光協会で議論し方向性を検討。

小野寺 克己

狛江市障害者計画に
ついて

問 ①発達障害について、愛の手帳を持っていないグレーゾーンの人は、公費負担で受けられるサービスはあるか。また、学齢期以降の対応状況は。②支援相談体制について、中学卒業後の対応状況と、市が放置

してきた児童デイサービスの利用待機者は毎年何人いるのか。③災害時の支援体制について、福祉避難所の検討状況は。

答 ①未就学児の場合「はる」に通所することは可能。

②福祉サービス支援室で手帳の有無にかかわらず相談に応じている。4月から年齢によっては待機の方が出る。③福祉保健部と連携し行う。

(仮称)ニトリ狛江
ショッピングセンター
について

問 ①交通問題について、都内と神奈川県のニトリ全店舗の営業時間が11時開始が8%で終了は21時が64%、狛江店は5年で他の2倍営業することになる。騒音解消の一つとして営業時間短縮の説得努力を。②災害時対応協定の事業者とのやりとりの状況は。③まちづくり条例について、モラルある調整会の規定の検討を。

答 ①意見を確認し、事業者市に要望を伝え調整中。③近隣説明会はあくまでも事業者の責任において行うべき内容。調整会ではまちづくり委員会が中立な立場で客観的な調整を行う。条例改正の中で検討する。

石川 和広

高齢者福祉の充実へ

問 ①地域包括支援センターのPR不足は否めないのか②地域包括支援センターに来る相談件数は③相談内容の分析

はできているのか④地域包括支援センターガイドラインとその評価基準はどのようなものか⑤地域福祉計画において進行管理体制の確立に向けた取り組みができてこなかった要因は⑥夜間・休日の相談体制の考え方は。

答 ①日常生活圏域の生活を支える場所としての役割がなかなか浸透していかない。②平成23年度3カ所3454件③分析はしていない。④センターの質の向上が目的で、評価方法は今後も継続して検討。⑤総合的な管理は、狛江市総合基本計画で示している。⑥重要施策として取り組みを進めていく。

狛江市の環境政策に
ついて

問 ①市の環境における目玉政策は何か②創設された環境政策部門が果たすべき新たな役割とは何か③狛江市環境基本計画の約2割の施策・事業が13年間も未着手・中断されたままにされてきた理由は④狛江市における環境指針はどのようになっているのか⑤地球温暖化対策の推進に関する法律の「地域推進計画」を策定するのか。

答 ①ワーキンググループと推進委員会が連携して取り組む機能。②総合的な観点からの環境施策の調整、推進。③コストがかかる、都の基準改定が必要等さまざまな要因が挙げられる。また、事業の進捗状況を管理する機能が十分でなく、新たな仕組みづくりを考えている。④明確にしたい。⑤地域推進計画を含む形で検討する。